

竹の里だより

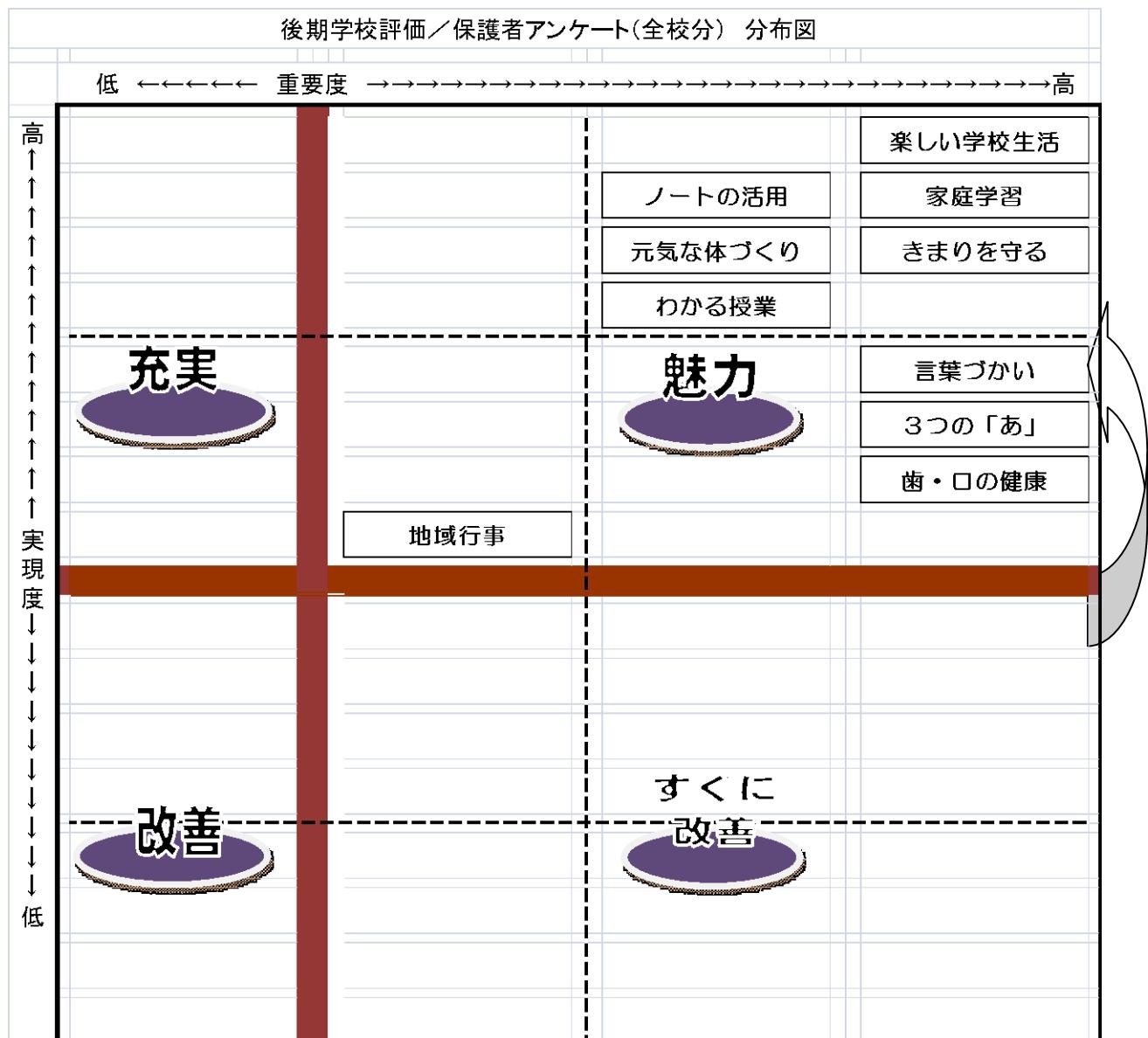


2月初旬にご協力いただきました学校評価アンケートの回収率は 86%でした。この回収率は昨年度と比べて数ポイント高い数値です。お忙しい中ご協力いただきましてありがとうございました。保護者の皆様方に高く評価いただいた点については気持ちを引き締めて、また厳しくご指摘いただいた点については早急に改善に着手し、よりよい学校づくりを目指していきます。また、各ご家庭に協力していただきたいことも明記しています。この結果を機に、今後とも学校と家庭が手を携えて「竹の里の子」の成長の歩みを力強く支えていけることを願っています。

今回の結果の概要と今後の取組について、以下のようにご報告いたします。

1 今回の学校評価（保護者アンケート）の概観

今回も保護者アンケートは、「重要度一実現度（ニーズ度）調査型アンケート」を導入して行いました。結果は、下図のような4つのエリアの分布図で表すことができます。



後期のアンケートでは、全項目が【魅力】に集まりました。とりわけ「楽しい学校生活」が送れているかどうかについては、前期と同様に最も実現度の高い項目でした。保護者アンケートと同様のジャンルをさらに細分化した27項目で実施した児童アンケートでも同様の結果となりました。「クラスの友だちと一緒に勉強したり遊んだりするのは楽しいですか」という質問項目に対して、80.6%が「そう思う」15.8%が「大体そう思う」と回答し、合計すると96.4%の児童が学校生活は楽しいと回答しました。子どもたちが1日の大半を過ごす学校が、居心地の良い場所であることは大変喜ばしいことです。

〈学習に関する項目〉

学習に関する項目で特筆すべきは、「家庭学習」についてです。保護者アンケートの前期と後期の【重要度】を比較すると、どの項目もほとんど変化がなかった中で、「家庭学習」が重要であるとの回答が増加しました。また、児童アンケートの「宿題を忘れずに毎日していますか」という質問項目に対する回答でも、「そう思う」が前期は56.9%だったのに対し、後期は80.6%にまで上昇しました。

質問項目	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
宿題を忘れずに毎日していますか	80.6	10.4	6.0	3.0

のことから、学校全体が家庭学習定着への取組に力を注ぎ、日々の学校生活の中で各担任が地道に指導に当たってきたことが、少しづつ成果として表れてきたと捉えます。それとともに、保護者の皆様方の家庭学習へのご理解とご協力のおかげであると感謝しております。今後も今回の結果に甘んじることなく、継続して家庭学習の充実に向けての取組に力を尽くしていきたいと思います。一層のご支援ご協力をよろしくお願ひします。

〈規範意識に関する項目〉

規範意識に関する項目で特筆すべきは、前期に【すぐに改善】領域にあった「言葉づかい」が【魅力】領域にランクアップしたことです。児童アンケートでも同様の結果となりました。

「年上の人には、ていねいな言葉をつかって話していますか」という質問項目に対して、「そう思う」「大体そう思う」両方の回答を合わせて、前期は78.3%でしたが、後期は92%にまで上昇しました。「友だちや家族が悲しくなるようなひどい言葉づかいをしないよう、気をつけていますか」という質問項目でも、83.8%から89.1%へと上昇しました。

質問項目	そう思う・大体そう思う(%)	
	前期	後期
年上の人には、ていねいな言葉をつかって話していますか	78.3	92.0
友だちや家族が悲しくなるようなひどい言葉づかいをしないよう、気をつけていますか	83.8	89.1

本校では、毎月、第2週目を「さわやか週間」とし、人の気持ちを思いやることや互いのよさを認め合うことなど、共通したテーマで計画的に人権教育をすすめてきました。上記の結果から、意図的・計画的に人権教育に取り組んできたことが少しづつ子どもたちに浸透していると捉えます。また、ご家庭や地域におかれましても、日常のあらゆる場面で優しく温かくお声かけをしてくださっていることが、竹の里の子どもたちの心を豊かにしてくれていることと感謝しております。これからも様々な場面でお世話になることと思います。今後共、どうぞよろしくお願ひします。

2 次年度に向けての課題と改善点



① 3つの「あ」

『竹の里小学校の教育』の中にも示しましたように、明るく元気なあいさつの「あ」、あとしまつの「あ」、ありがとうの「あ」…この3つの「あ」が息づく温かい学校をめざしてという目標を掲げ取り組んでまいりました。この3つの「あ」については、昨年度は【すぐに改善すべき】の領域という残念な結果でしたが、今年度は【魅力】の領域に入りました。大変、嬉しいことです。

年度内で比較すると、前期の実現度が77%、後期の実現度は78%という結果で、年間通してあまり変化が見られませんでした。ところが、児童アンケートでは3つの「あ」の3項目共、実現度が高く、「自分から進んであいさつをしていますか」という質問項目では、「そう思う」「だいたいそう思う」の回答合計が、前期は85.6%でしたが、後期は93.0%と上昇しました。

児童の実態調査項目	そう思う・だいたいそう思う(%)	
	前期	後期
(3つの「あ」) じぶんからすすんであいさつをしていますか。	85.6	93.0
(3つの「あ」) 「ありがとう」のきもちを、いつもことばでつたえていますか。	94.6	94.0
(3つの「あ」) あとからつかう人のことをかんがえて、あとしまつをきちんとしていますか。	86.8	88.6

これらの結果から、大人の意識と子どもの意識とのズレを感じます。子どもは、自分では頑張っている（出来ている）と思っているのでしょうか。その頑張りは認めた上で、更に実現度をUPするにはどのように行動すればよいのかを具体的に指導していくことが今後の課題であると考えます。例えば、朝のあいさつが進んでできない現状ですが、意識して‘おはようございます’と進んで挨拶するとどのような良いことがあるのかを考える学習、‘ありがとう’の気持ちを言葉で伝えることがなぜ大切なのかを考える学習、出来たか出来なかったかを自分自身で振り返る学習等々。工夫を凝らして再度、取組を徹底していきたいと思います。

② 家庭学習

家庭学習への取組の成果については先に述べましたが、学校での授業中の様子を見ていると、まだまだ気になる点がいくつか挙げられます。例えば、鉛筆の持ち方・筆箱の中身・下敷きを敷く習慣・姿勢・集中力等々です。

これらは、次年度に向けての重要な課題であると考えます。ご家庭におかれましても、毎日の宿題を子たちが最後までやり遂げられますように励ましていただきと共に、上記の点についても気をつけていただき、学校と家庭が連携して子たちを育てていきたい思います。

③ ノートの活用・子ども主体の授業

近年、学力を語る上で、基礎的・基本的な知識や技能の習得はもちろんのこと、これらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成することが重要な課題となっています。本校では、豊かな表現ができる子どもをめざして、子どもが主体的に考え、話したり書いたりする授業を行ってきました。また、ノート指導においても「写すノートから自分の思いや考えを書くノート」の指導に力を注いきました。とりわけ算数科の授業では、ノート指導の基本を全校で共通理解しながら日々の授業で活用しています。

しかしながら、前期の保護者アンケートや児童アンケートの回答結果では、その成果が十分定着しているとはいえないという実態が見えてきました。この結果を我々教職員は真摯に受け止め、

子どもが生き生きと表現する授業ができるように、またノートづくりの具体的な手本となる板書ができるように、日々研鑽を積んで指導に当たってきました。ご家庭でも、子どものノートを見て、自分の考えたことや感想が書かれていれば、ぜひ褒めてあげてくださいとのお願いをしてきました。

児童の実態調査項目	前期		後期	
	そう思う	大体そう思う	そう思う	大体そう思う
授業中は、よく考え、進んで発表していますか	26.9	38.8	32.5	43.0
ノートに、勉強したことや考えたことを丁寧にかいていますか	39.4	48.1	66.3	28.8

後期の児童アンケートでは、上記のような回答結果となりました。「授業中は、よく考え、進んで発表していますか」という質問項目に対して、「そう思う」「大体そう思う」両方の回答を合わせて、前期は65.7%でしたが、後期は75.5%に上昇しました。また、「ノートに、勉強したことや考えたことを丁寧にかいていますか」という質問項目でも「そう思う」「大体そう思う」両方の回答を合わせて、前期は87.5%でしたが、後期は95.1%にまで上昇しました。その内訳を見ましても、「そう思う」との回答が39.4%から66.3%にまで上昇しました。これらの結果から、前期の反省を踏まえて取り組んできたことが成果として表れたことを大変嬉しく思います。

次年度も、子どもたちの更なる学力向上を目指して全教職員一丸となって取り組む所存です。学ぶ意欲にあふれた子どもたちが、自由に意見や考えを交流する授業を日々展開できれば、必ず学力向上につながると、我々は確信しています。今後共、本校の教育についてご理解ご協力の程、よろしくお願いいたします。

3 学校関係者評価



学校評価アンケート結果を受けて、学校運営協議会理事会の理事の方々から、以下のような意見を頂戴しました。是非、今後の取組に生かしていきたいと思います。

＜3つの「あ」に関連して＞

- 3つの「あ」（あいさつ・あとかたづけ・ありがとう）が、家族構成や住環境の変化により身につきにくくなっているように思う。3つの「あ」に取り組み始めて3年目になるが、竹の里の子どもたちには、社会の一員として生きるためにしっかり身につけていってほしい。
- 散歩やランニングをしながら、竹の里の子どもたちを見守っている。地域での触れ合いを大切にしたいと考え、進んで声をかけるようにしてきた。
- 大人でも挨拶を返さない人がいる。“子は親を見て育つ”とよくいわれるが、周囲の大人が手本を示すようにしたい。

＜家庭学習に関連して＞

- 1年生の放課後学び教室での様子は、春の頃に比べると落ち着いてきた。
- “じやまくさい”という理由で、鉛筆や消しゴムを（自分のものを出さずに）人に借りようとする子どもがいる。“じやまくさい”という意識は、学力向上の足かせであると思う。各家庭で、子たちがそのような言葉を発することはないか気を付けてみてほしい。
- 「音読を家庭で聞いてあげること」は、学習習慣の必要性から大切である。また、そのことにより親子の対話が生まれたりもする。ぜひとも、家庭で音読を聞いてあげてほしい。

＜子ども主体の授業に関連して＞

- 子どもが主体的に考え、話したり書いたりする授業により、子どもの力を伸ばしていただくのは大変ありがたい。今後も継続していってほしい。